



二風谷ダム管理橋から上流側を見た景観（南西側から撮影）

沙流川流域に見るアイヌの伝統的世界観 —文化的景観解説サインの紹介 2—

沙流川は、日高山脈から太平洋にそそぐ長さ約 104km の一級河川です。最大の支流が額平川で、荷負地区において、沙流川と額平川の二股の景観が見られます。

このような分岐は、アイヌ語でペテウコピ（pet-e-u-ko-hopi-i）と呼ばれ、「川が / そこで / 互い / に / 捨て去る / 所」が解釈の一つです。川を下流側から上流側へと見る意識があると考えられます。特に大きな川が分れるところは祈りの対象であり、敬いの精神が引き継がれています。また、川は生き物とも考えられ、例えば、水源は「川の頭」、中流は「川の胸」、支流は「川の腕」とも言われます。そうした世界観を理解すると、二風谷地区にある蛇行した小河川が、カンカン（kan-kan、腸）というアイヌ語地名であることもうなずけます。

にぶたに湖の二風谷ダム管理橋付近に、サインと駐車スペースがあります。気象等の条件によりませんが、橋の上からは、両河川の水の色合いがすぐには混ざりあわず、分流している様子を見ることができます。（山本 雄）



※橋の上は車両通行止めです。駐車スペースに駐車願います。



国道沿いの案内サインが目印

解説サイン（視点場）

567 007 349*78



沙流川流域の野鳥たち No.4

キツツキ目キツツキ科

観察難易度：★☆☆☆

アカゲラ

学名：*Dendrocopos major* 漢字名：^{あかげら}赤啄木鳥

英語名：Great Spotted Woodpecker

アイヌ語名：エソクソキ【esoksoki】

大きさ 体長 24 ～ 25 センチ

鳴き声 ”キョッ、キョッ” と鳴いたり、“ケレレレ…”
“キョキョキョキョ…” と鳴くこともある。

特徴 後頭部とお腹が赤いことと、背中に「^{ぎゃくはち}逆八の字」
の白い模様がある。後頭部に赤いところがあったら、オスの成鳥か幼鳥。メスの成鳥は黒い。

生息環境 平地から山地の森林。全道で普通に見られる。
(ある程度の規模の林があれば、緑地や公園など
身近な場所にも生息する。)

行動 キツツキの仲間が木をつつく行動をドラミングと
呼ぶ。木の中の昆虫を見つける時や、つがいにな
る異性に見つけてもらう時、縄張り争いで^{いかく}威嚇す
る時、巣を作る時、あとは夫婦が子守りの交代を
する時の合図などに使われている。



アカゲラ・オス



アカゲラ・メス

写真：太田裕子氏（新冠町）より寄贈

～ 固い木をつついて頭は大丈夫？～

ドラミングは、1 秒間に 20 回も木をつついたりするので、^{のうしんとう}脳震盪にならないのか心配
になります。虫を食べるときも、巣穴を掘るときも、木をつつくキツツキの仲間には、
衝撃から脳を守る特殊な構造があります。外からは見えませんが、舌の付け根にあたる
舌骨と筋肉の部分、鼻の穴から出て伸び、頭骨を一回りして口元まできています。

このような構造が頭を打ち付ける際の衝撃を吸
収するのを助けています。どのような進化でこ
んな構造になったのか不思議ですが、舌につな
がる筋肉部分は頭骨を保護している上に、舌骨
をおし出して舌を伸ばす働きもあります。それ
によって舌を長く伸ばすことができ、深い穴の
奥にいる虫を食べられるワケです。(鈴木正美)

頭骨をぐるっと回る舌骨



舌の先は小さな棘状の
突起になっている

平取町立二風谷アイヌ文化博物館第 28 回特別展

「北海道における近代の学校とアイヌ民族 - 沙流川流域を中心に -」

12月4日(日)まで開催中

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 第28回特別展

10.4 12.4 10:00-16:30

11月11日(土)・11月24日(土) 入館料200円、小学生100円(税込)

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 企画展

北海道における近代の学校とアイヌ民族
— 沙流川流域を中心に —

北海道の近代化に伴う教育環境の整備と、アイヌ民族の主体性
の確立を学ぶための特別展を開催します。アイヌの伝統的な
暮らしが移り変わっていった歴史の中で、地域社会の発展を
目指して活動した平取ペリウクや長瀬のレンタク、川上サノウ
らの活動にも触れ、人々が教育にかけた思いが今日の
ような形で地域に受け継がれていることを学びます。

特別展関連書籍 (平取町立、平取町)

「国立旧土人小学校」の設置
— 平取尋常小学校・二風谷尋常小学校を例に —

平取町立二風谷アイヌ文化博物館
〒055-0301 北海道平取町平取二風谷55
【営業時間】 9:00～16:30 【TEL】 01457-2-2892

▲特別展ポスター



▲二風谷小学校の創立75周年記念式典の際に木呂子敏彦に贈られた感謝状。(菅原紀子氏寄贈)

現在開催中の第 28 回特別展のみどころは、大正 6
(1917) ～同 7 (1918) 年に平取尋常小学校 (現平取町
立平取小学校) で教師を勤めた江賀寅三 (1894-1968)
が使用していた聖書と懐中時計 (いずれも静内新生
キリスト教会所蔵) です。明治 32 (1899) 年に施行さ
れた旧土人保護法により、同校ではアイヌと和人児
童を分けた教育が行われていましたが、江賀の提案
により混合教育が実現されました。江賀は数年後に
教師を引退し、キリスト教の教職者となりました。

明治 25 (1892) 年に開校した二風谷小学校は、昭和
27 (1952) 年の十勝沖地震で 3 代目の校舎が半壊しま
した。当時、北海道教育委員を務めていた木呂子敏
彦 (1914-2005) は違星北斗 (1901-1929) の短歌「平
取に浴場ひとつほしいもの 金があつたら建てたい
ものを」から着想を得、風呂のある校舎の設立を提
案しました。建設にあたり、1,000 人以上の地域住民
が労力奉仕をし、地震から 2 年後の昭和 29 (1954) 年
に風呂と水洗トイレ、時計台のある「とんがりぼう
し」の校舎が完成しました。昭和 43 (1968) 年の創立
75 周年記念式典の際に木呂子は地域住民から感謝状
やアイヌ刺繍入り幕などを受け取りました。これら
の品は本展に際し、ご家族の方が当館に寄贈して下
さり、展示する運びとなりました。ぜひ当展で平取
の学校ゆかりの資料をご覧ください。 (廣岡絵美)

【特別展関連講座 1】

「国立旧土人小学校」の設置

— 平取尋常小学校・二風谷尋常小学校を例に

* 往時使われた用語を「」でくくって示しています。

講師：百瀬響氏 (北海道教育大学札幌校 教授)

日時：10月29日(土)15:00～17:00

会場：沙流川歴史館レクチャーホール(定員210名)

* 申込締切10/22、参加無料

【特別展関連講座 2】

平取発～現代「アイヌ学習」の誕生

講師：平山裕人氏 (コロポックル学びの家 講師)

日時：11月12日(土)13:30～15:30

会場：沙流川歴史館レクチャーホール(定員210名)

* 申込締切11/5、参加無料

講座 1、2 申込先：平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

オンライン受講申込先：ranko@town.biratori.lg.jp、またはQRコードから⇒



～縄文時代に思いをはせる～



土器づくり体験



沙流川歴史館では、二風谷小学校で「土器づくり体験」の出張授業を行いました。「土器づくりを通じて先史時代の文化に触れる」という目的のもと授業が行われました。

第1回目は、油粘土をつかって土器づくりの練習をしました。まず底を作って、粘土を細く伸ばし紐状にして、積み上げてはくっつけるという基本的な土器のつくり方の授業をし、どんな道具を使ったら、どんな文様を付けることが出来るのか？なども勉強しました。

第2回目は、実際に土器用の粘土をつかって土器を作りました。油粘土とは違い、固く乾きやすくヒビ割れしやすいので大変だったと思いますが、みんな上手に出来ていました。また、形もひとりひとり工夫していて個性的な作品に仕上がっていました。



第1回目 長田館長の説明



色々な文様の付け方



第2回目 実際に土器をつくりました

第3回目は、いよいよ土器の野焼きです。約3週間乾かして、固くなった土器を焼きました。まずは空焚きをして地面をあたためてから、土器を並べていき薪や小枝を足して、もう一度火をつけます。2時間ほど焼いた結果、土器はひとつも割れずに綺麗に焼き上がり、大成功でした。子供たちからも、楽しかったという感想が聞けました。今後も学校の授業やイベントなどで様々な方々が土器に触れられる体験をしていけたらと思います。(佐々木知代)



第3回目 土器を並べたところ



焼き上がり



アイヌ語を覚えてみよう ①⑥

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、アイヌ語の鳥の名前とその意味をいくつか紹介します。



※スズメ アマメチカッポ（アマム・穀物 エ・～を食べる チカッポ 小鳥）

最近少なくなったのではないかと心配される鳥ですが、アイヌ語名は、まさにこの鳥を言っていますね。チカプ は鳥の総称ですが、後ろに ポ をつけて、小さい、可愛い、というニュアンスを表すことができます。同じように魚の総称は チェプ ですが、小魚のことはチェッポ と言います。



※ヒバリ チャランケチカプ(チャランケ・談判する チカプ・鳥)

上空で羽ばたきながらさえずり続ける姿を思い描ける、ぴったりのネーミングですね。

※クマゲラ チプタチカプ(チプタ・舟を彫る チカプ・鳥)

この鳥が木に穿つ大きな穴を見たことがあれば納得がいく名前です。



※ハクセキレイ オチウチリ(オチウ・交尾する チリ・鳥)

この鳥がひっきりなしに尾羽を上下させる様子を端的に表していますが、あまりにも直接的な描写に驚きます。



※シマフクロウ コタンコロカムイ（コタン・村 コロ・～を所有する カムイ・神）

この鳥は、つがいでいますが夜になると決まった木に止まり、オスとメスが「フォフォ」「フォーッ」と鳴き交わしをしたそうです。その声が村を魔物から守っているのだと信じられ、このような名前が付いたのだそうです。今はとても数が少ない鳥ですが、昔はきっと、どこのコタンでもその声を聞くことができたのでしょう。



※シマエナガ ウパシチリ(ウパシ・雪 チリ・鳥)

冬に群れで雪の上に降りるのでこの名前がついたと言われています。

今、大人気の鳥ですがアイヌ語もこの鳥の可愛さを表現できていると思います。



ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！

（それではここまでです。またお会いしましょう！）

アイヌ政策推進交付金事業 ⑥

アイヌ政策推進交付金とは、アイヌ文化の振興や福祉施策に加え、地域振興、産業振興、観光振興等を含めた市町村のアイヌ施策を支援する交付金制度です。

観光商工課では、(一社) びらとり観光協会で事業を受託し、アイヌ文化等の次世代への継承と地域に存在するアイヌ文化等を発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活性化させるため、いろいろな取り組みを行っています。その一つとして、「二風谷アイヌ民具コレクションカード」(12 種類) が作成されました。

カードの配布は、町内の観光施設や飲食店の皆様にご協力いただきました。

平取町のアイヌの民具を通して、「アイヌ文化」の魅力を町内外に幅広く発信することができたのではないのでしょうか。(阿部孝之)



2013年3月8日、北海道で初めて経済産業省の「伝統的工芸品」に指定されました。



開拓財産 ～むかしのどうぐ～

にぶたに
番外編：二風谷青年会図書館(3)

二風谷青年会図書館は、明治 44(1911) 年に二風谷尋常小学校の敷地内に建設されました。
 平取町^{びらとりちょう}二風谷在住の町民の方(70代)によると、図書館は学校の正門の左側に所在していました(図1の●印)。当時の建物は高床式で、入口に階段が設置されていました。地面から床までの高さは約1mあったそうです。昭和 29(1954)年の校舎建設に伴い、図書館は現在の場所(図1の●印)に移築されました。移築後の建物は高床式ではなくなりました(写真1)。



▲図1：二風谷青年会図書館の位置図。設立当初の図書館は正門の左側(●印)に所在していた。現在は正門の右側(●印)に所在する。



▲写真1：移築後の二風谷青年会図書館の外観(写真中央)。左手奥にあるのは昭和29(1954)年に完成した二風谷小学校の校舎(愛称：とんがりぼうし。今月号たより「博物館特別展」のページ参照)。同校舎は新校舎に移転する昭和62(1982)年に取り壊され、建物の一部は現在学校の敷地内に保管されている。写真蔵：北海道立アイヌ総合センター

平取町開拓財産展示施設の活用 ～令和4(2022)年度 博物館実習～

平取町立二風谷アイヌ文化博物館と沙流川歴史館で、学芸員資格取得のための博物館実習を実施しました。今年は8月17～23日に北海道大学の4年生1名と、北海道大学大学院修士課程1年生1名が実習しました。平取町^{はんとん}荷負^{におい}在住の川奈野^{かわなの}一信^{かずのぶ}さんから寄贈された「長知内^{おさちない}ふるさと会」の半纏^{はんてん}について同氏に聞き取りを行い、解説パネルを制作しました。パネルは半纏と共に開拓財産展示施設に展示しています。施設にお越しの際はぜひご覧下さい。(廣岡絵美)



▲川奈野さんへのインタビューの様子(二風谷アイヌ文化博物館にて)



▲川奈野さんによる林業に関する解説(開拓財産展示施設 展示室G「林業・馬具」にて)



▲半纏と解説パネルを設置している様子(開拓財産展示施設 廊下の壁面)

◆◆◆◆ 開拓財産展示施設 見学のご案内 ◆◆◆◆

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 9:00～12:00
 上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892
 または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■特別展

『北海道における近代の学校とアイヌ民族—
沙流川流域を中心に—』

期間：10月4日(火)～12月4日(日)

場所：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■特別展講座【2回開催】

・講座1：10月29日(土) 15:00～17:00

『「国立旧土人小学校」の設置

—平取尋常小学校・二風谷尋常小学校を
例に』

講師：百瀬響氏

(北海道教育大学札幌校教授)

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

・講座2：11月12日(土) 13:30～15:30

『平取発～現代「アイヌ学習」の誕生』

講師：平山裕人氏

(コロポックル学びの家講師)

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

■休館日のお知らせ

冬期間(12月15日～1月15日)の1ヶ月間
は、館内整備のため休館します。

沙流川歴史館

■特別展

『沙流川流域の野鳥たち』

期間：10月4日(火)～12月4日(日)

場所：沙流川歴史館エントランスホール・
企画展示室他

休館日：毎週月曜日

■沙流川歴史館講座

『川と生き物』

期日：10月22日(土) 15:00～16:20

講師：村井雅之氏

(ゆうふつ原野自然情報センター)

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

■特別展展示解説

『教えてレンジャーびらとりの鳥』

期日：10月22日(土) 16:30～17:00

解説者：公益財団法人日本野鳥の会
ウトナイ湖サンクチュアリ
レンジャー

2022年10月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2022年11月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

2022年12月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2023年1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

■ 博物館・歴史館 特別展 ■ 歴史館 休館日 ● 博物館休館日 ● 博物館・歴史館休館日



シシムカ文化財だより No. 16

2022年10月21日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中!



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中!

